

基本計画 第3章

分野別施策

分野 1 子ども・子育て、教育

分野 2 健康、福祉

分野 3 共生、文化芸術、スポーツ

分野 4 安心・安全、都市基盤、交通

分野 5 産業、雇用、環境

分野別施策では、まず目指す姿を想定し、現状を把握します。その上で、目指す姿に到達するための課題を整理し、その課題を解決する取組方針をまとめています。

また、国が示した「地方創生 SDGs ローカル指標リスト*」を参考にした成果指標を、一部設定しています。このような成果指標は、SDGs が必達目標でないことを踏まえ、目標値ではなく目指すべき方向性（「矢印」などの定性的な目標）を設定しています。

これらの成果指標は、目標値にとらわれず、指標が変動した要因・分析に焦点を当て、データや証拠に基づいて、施策の効果を高めるための幅広い議論、検討をしていきます。

注釈「*」今後、用語解説で説明します。

子育てにやさしいまちづくりを推進する

➤ 目指す姿

遊びや会話など、家族で楽しい時間を過ごしている親子に温かい眼差しが注がれ、子どもたちの笑顔を中心に周りの人々に幸せな気持ちが広がっています。

➤ 現 状

地域のつながりが希薄となる中で、孤立感や不安感を抱える妊婦や子育て世帯が増加傾向にあります。

子どもの抱える課題が多様化するとともに、医療的ケア児、障がい児、発達に課題のある子どもについての相談が増加傾向にあります。

女性の就労率の向上や核家族化などにより、保育需要が高まっています。

➤ 課 題

子どもの視点に立った支援を強化する必要があります。

安心して産み育てられる環境の整備、医療体制が必要です。

子育てと仕事を両立し、多様なニーズに応えた、安全な幼児教育・保育環境の整備が必要です。

将来の人口減少を見据えた保育士の確保が必要です。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

妊娠・出産・子育てにおける不安を解消し、切れ目のない支援を行います。
 様々な課題を抱える世帯やヤングケアラーなどの子どもを支援します。
 小児・周産期の救急診療、医療提供体制を維持します。
 少子化の進行と多様なニーズを踏まえた保育所等の整備と保育士確保を進めます。
 保育所等における保護者や保育士の負担軽減と安全対策を強化します。
 放課後児童クラブの整備を進めます。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性(目標値) (2027)	方向性(目標値) (2031)
子育てに関する相談件数	集計中	検討中	(件)
保育所等申込者に対する受入可能 人数の割合	97.0%		(%)

こども家庭センター・こども発達支援室くれよんにおける相談

子どもの学びを充実する

➤ 目指す姿

子どもたちが様々な教育活動を通して、確かな学力、豊かな心と健やかな体を身に付けています。

➤ 現 状

確かな学力¹を育成しています。

豊かな心²と健やかな体を育成しています。

1人1台のタブレット端末や高速大容量の通信ネットワーク環境が整っています。

地域とともにある学校づくりが求められています。

1 知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性等

2 豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやりの心等

➤ 課 題

子どもの可能性を引き出す個別最適で協働的な学びの場が必要です。

自己肯定感や思いやりの心を育む必要があります。

基本的な生活習慣や運動習慣を確立する必要があります。

これまで実践してきた教育活動とICTを活用した教育活動のベストミックスを図る必要があります。

学校運営の改善に社会総がかりで対応するよう、地域の人的・物的資源を活用する必要があります。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図ります。
- 道徳教育や人権教育及び体験活動を充実します。
- 体育・健康に関する指導を充実します。
- 教員のICT活用指導力を高めます。
- 学校教育や学校運営において、地域との連携を強化します。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
授業（国語、算数・数学）の内容がよく分かると回答した児童・生徒の割合（小中学校）	集計中	検討中	
自分には良いところがあると回答した児童・生徒の割合（小中学校）	小 77.6% 中 76.0%		

教育環境を充実する

➤ 目指す姿

全ての学校で、事故を未然に防いでおり、安全な施設の中で子どもたちが学校生活を過ごしています。また、一人一人の興味や関心、課題に応じた指導や支援の中で、子どもたちが自らの可能性を感じ、未来へ向かって歩んでいます。

➤ 現 状

子どもが抱える困難さや教育的ニーズが多様化・複雑化しています。
学校施設や各種設備が老朽化しています。
学校を取り巻く社会情勢や環境の変化により、子どもたちを取り巻く環境も変化しています。

➤ 課 題

子どもたちの健やかな成長を支える必要があります。
子どもが抱える課題に寄り添い、教育機会を確保する必要があります。
学校施設の適切な管理と教職員の安全管理意識の向上が必要です。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

- 持続可能で効率的な給食運営を実現します。
- インクルーシブ教育を推進するとともに、相談・支援体制を強化します。
- 経済的な理由により、就学が困難な家庭を援助します。
- 学校施設や各種設備の計画的な整備を進めます。
- 学校事故や災害等を想定した危機管理演習を実施します。
- 通学路の環境整備をはじめ、学校安全対策を推進します。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
小・中学校のトイレの洋式化率	60.3%	検討中	(%)
学校に行くのは楽しいと回答した 児童・生徒の割合（小中学校）	集計中		(%)

学校トイレ洋式化計画は2029年度で完了予定

青少年の健全育成を推進する

➤ 目指す姿

青少年が自分自身に自信を持ち、社会性やリーダーシップを育む中で、大切な思い出を作っています。また、次代の社会の担い手としての活躍が期待されています。

➤ 現 状

青少年の抱える問題が複雑化・多様化しています。
ジュニア・リーダーズクラブの会員数が減少しているほか、地区での活動が縮小しています。
県内他市と比べて、多くの青少年指導員が活動しています。
一部の青少年が孤立し、ひきこもり状態になっています。
青少年活動の拠点であるびわ青少年の家を利活用する必要があります。

➤ 課 題

青少年が抱える問題に対処する必要があります。
地域をけん引する青少年を育てる必要があります。
青少年指導員を中心とした新たな意欲のある人材が必要です。
ひきこもり状態にある青少年の孤立を解消する必要があります。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

青少年の非行化防止の活動を充実するとともに、相談体制の質的向上を図ります。
 集団活動など青少年リーダーの魅力を発信するとともに、広域連携した研修などを充実します。
 青少年指導員の活動等について、効果的に情報発信をし、加入促進へつなげます。
 ひきこもりの支援団体等と連携し、社会参加のきっかけづくりを推進します。
 びわ青少年の家の利用対象を広げ、幅広い用途で活用します。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
愛護指導件数	817 件	検討中	
ジュニア・リーダーズクラブの派遣回数	7 件		

：地域・団体等への派遣回数

健康づくりを推進する

➤ 目指す姿

若い年代から健康を維持増進するため、自ら進んで食生活や運動習慣の改善を図り、一人一人が仕事や趣味、家庭生活を充実しながら心身ともに健やかな人生を歩んでいます。

➤ 現 状

国民健康保険の特定健康診査や特定保健指導の実施率は、全国平均と比較して低く、メタボリックシンドロームの予備群及び該当者が増加しています。
食育の関心度が、全国及び神奈川県と比較して低い現状です。
地域の拠点病院の重要性が高まっています。
感染症の発生予防及びまん延防止が求められています。

➤ 課 題

市民一人一人が、自ら進んで健康づくりに取り組む必要があります。
食育の関心を高める必要があります。
市民に良質で高度な医療を提供し続ける必要があります。
新たな感染症や既知の感染症に迅速かつ的確に対応する必要があります。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

健康に対する正しい知識を習得する場を提供するとともに、健（検）診等を受けやすい環境づくりに取り組みます。

生活習慣病の発症及び重症化の予防と介護予防に取り組みます。

地産地消を推進するとともに、心身の健康につながる食の情報を提供します。

高度医療機器等を整備、活用します。

感染症対策として、予防接種等を行います。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
がん検診の受診率	集計中	検討中	(%)
特定健康診査 の受診率	36.3%		

：本市における「こくほ特定健診」

地域福祉を充実する

➤ 目指す姿

一人一人の生活を、愛着のある帰るべき場所としての地域が温かく包み、様々な困難を抱えた場合でも、世代を超えて互いにつながり、支え合いながら、全ての人がそれぞれにとっての生きがいや将来に向けた希望を持って、不安のない充実した毎日を送っています。

➤ 現 状

地域住民が抱える課題は複雑化・複合化しています。
ボランティアの高齢化や固定化が進み、町内福祉村などの地域活動を継続していくことが難しくなっています。

➤ 課 題

地域住民の分野横断的な課題を解決する必要があります。
市民のこころと命を守り、判断能力が十分ではない人の権利を擁護する必要があります。
生活保護受給者や生活困窮者となる負の連鎖を断ち切る必要があります。
世代を超えた人と人とのつながりを創り、持続可能な支え合いのまちづくりを促進する必要があります。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

断らない包括的相談体制、参加支援、地域づくりに向けた支援が、一体的に実施される重層的支援体制の整備を進めます。

「地域医療福祉拠点整備モデル地区構想」の実現に向けた取組を進めます。

町内福祉村などの地域活動を中核とした地域の絆づくりを進めるとともに、福祉会館のあり方を見直し、多世代交流を進めます。

地域における市民後見人を養成するとともに、自殺対策に取り組むゲートキーパーを養成します。

アウトリーチにより生活困窮世帯を把握し、生活保護受給世帯も含めて経済的自立に向けた子どもの学習支援や就労支援を促進します。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
町内福祉村設置地区数	18 地区	検討中	
町内福祉村ボランティア登録数	1,514 人		
人口 10 万人当たりの自殺者数	16.8 人	↓	↓

高齢者福祉を充実する

➤ 目指す姿

人生 100 年時代の中、元気な人だけでなく介護や医療が必要な高齢者であっても、住み慣れた地域で、人とのつながりを大切にしながら、自分の時間を楽しんでいます。また、これまでに培った経験や能力、趣味などが活かされ、地域の人たちと頼り、頼られ、生きがいをもって、自分らしく暮らし続けています。

➤ 現 状

健康寿命が延伸する一方、経済情勢の悪化、雇用形態の多様化、単身世帯の増加などが進んでいます。

85 歳以上の高齢者人口の増加に伴い、介護サービスの需要が更に高まっています。脳血管疾患や認知症が介護リスクを高めています。

➤ 課 題

高齢者がいつまでも活躍できる場と生涯にわたる生きがいづくりが必要です。

いつまでも充実した生活を送り、不安なく次世代に引き継げるよう、一人一人の権利を守る必要があります。

介護保険サービスの安定的な提供が必要です。

フレイル（虚弱）及び生活習慣病の重症化を予防する必要があります。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

高齢者が地域の中で多様な役割を担い、元気で長生きできるように、介護予防に取り組みやすい環境を整えます。

高齢者が働き方と働き場所を選択でき、技能や知識・経験を活かせる生きがい就労を支援します。

権利擁護並びに認知症総合施策を推進します。

介護人材の確保、介護現場の生産性向上に向けた取組や介護サービスの質の向上を推進します。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
認知症サポーター養成者数【累計】	27,309人	検討中	
フレイルリスクの減少・維持者の割合	66.5%		

：フレイルの兆候をチェックする22の質問項目のうち8個以上に該当すると、フレイルが進行し将来的に要介護状態になりやすいといわれる。

障がい福祉を推進する

➤ 目指す姿

障がいの有無に関わらず、手話や新しいデジタル技術で自然にコミュニケーションをとり、困っている人には手を差し伸べる思いやりが生まれ、地域に心からの笑顔があふれ、共に生きることの素晴らしさを感じています。

➤ 現 状

障がい者の自立及び社会参加の支援等のための法整備が行われています。
障がい者への理解や権利擁護の必要性が高まっています。
ダイバーシティ&インクルージョン の考え方が広まっており、障がい者の就労支援に関する需要は増加を続けています。

多様性と包括性。ただ多様な人材を雇用するのではなく、能力を最大限発揮させ活躍させることを含めた考え方。

➤ 課 題

障がいへの理解を深め、障がい者がその人らしく暮らすことが必要です。
障がい者の増加等に伴い多様化・複雑化する障がい福祉サービスの需要増加に対応する必要があります。
障がい者が自立した生活を送ることが必要です。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

障がい者の地域移行や地域生活の支援に関する諸課題に対応できる仕組みづくりを促進します。

相談支援や在宅サービス等の提供体制の強化に取り組みます。

心のバリアフリーに関する取組を推進します。

障がい特性と希望に応じた就労支援を促進します。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
在宅福祉サービス利用者数	3,010人	検討中	
ひらつか就労援助センターの支援を受けながら就労している人数	399人		

平和意識の普及啓発や人権尊重を推進する

➤ 目指す姿

恒久平和の実現に向けて、自分にできることを考え、実行しています。また、その行動が周囲の人々にも影響を与え、社会全体がより平和へと向かっています。

一人一人の人権が尊重されており、あらゆる差別がなく、多様な人々が社会で活躍しています。また、ジェンダー平等のもと、お互いの個性や違いを尊重し、多様性を認め合いながら、自分らしく生きることができています。

一人一人が、性別に関わらず平等に責任、権利、機会を分かち合い、あらゆる物事を一緒に決めること

➤ 現 状

戦争体験者の高齢化が進み、戦争を知らない世代が増えています。

人権問題は社会の変化につれて多様性と複雑性が増しています。

男女平等意識は高まっているものの、男性優位の状況が見られます。

➤ 課 題

戦争の悲惨さを後世に伝える必要があります。

平和推進の主体を若い世代を中心に担ってもらう必要があります。

ジェンダー平等をはじめとする人権尊重の理念を浸透させる必要があります。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

児童、生徒及び学生の平和意識の普及啓発に取り組みます。
 人権教育及び人権啓発を推進するとともに、関係機関との連携を深め、様々な人権問題に関する相談・支援体制の充実を図ります。
 性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するための環境づくりを進めます。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
平和推進事業への参加者数	1,620人	検討中	
平和推進事業における若い世代の協力者数	28人		
市審議会等における女性委員の割合	27.2%		
人権事業への参加者数	865人		

：若い世代の協力者...中高、大学生のボランティア数など

市民交流・多文化共生を推進する

➤ 目指す姿

友好都市や姉妹都市との相互理解が深まり、異なる文化や価値観を受け入れることができる豊かな人間性が育まれています。また、多文化共生のまちとして、多様な市民が言語や生活習慣の違いを理解し、尊重し合いながら暮らしています。

市民、企業及び大学が強みを持ち寄って交流し、地域への愛着を深め、つながりができています。

➤ 現 状

社会情勢の変化により、交流に対する市民の考え方が多様化しています。

留学生や技能実習生の増加に伴い、本市の外国籍市民が増加しています。

新たな姉妹都市提携により、市民交流の機会が創出されています。

文化・生涯学習、スポーツ、福祉、環境、観光・産業の5つの幅広い分野において、市民、企業及び大学の交流を進めています。

➤ 課 題

友好都市や姉妹都市の魅力について、理解と関心を高める必要があります。

外国籍市民が地域で安心して暮らせることが必要です。

企業や大学の持つ知識やノウハウを活かし、市民、企業及び大学のつながりを強化する必要があります。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

社会情勢や市民ニーズを捉えた友好都市や姉妹都市との交流を推進します。
 多言語による相談や情報提供を行うとともに、外国籍市民のための日本語教室の充実を図ります。
 多様性の尊重や異文化の理解促進に取り組みます。
 学術・文化・スポーツをはじめとした多様な分野において、市民、企業及び大学の相互交流を支援します。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
市民交流事業参加者数【累計】	238人	検討中	検討中
日本語教室の受講者数【累計】	54人		
市民・大学交流委員会の事業数	14事業		

コミュニティ活動を促進する

➤ 目指す姿

地域ぐるみで自発的・自立的に地域課題が解決できるコミュニティが形成され、地域の絆が育まれています。

➤ 現 状

地域課題が多様化、複雑化しています。
高齢の男性が中心となって自治会組織を運営しています。
既存の市民活動団体では会員の高齢化が進んでいます。

➤ 課 題

自治会運営の持続可能性を高める必要があります。
市民活動の活性化を図る必要があります。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

➤ 取組方針

自治会や市民活動団体、事業者など多様な主体間の連携や協働を促進します。
多世代の地域活動や市民活動への関心を高め、参加を促進します。

➤ 成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
地域における「協議の場」の数	8箇所	検討中	
ひらつか市民活動センターの 利用人数	26,163人		

：様々な地域団体が集まり、地域の課題解決や更なる活性化を検討する場

生涯学習や文化芸術活動を推進する

➤ 目指す姿

生涯学習の環境や伝統芸能に触れる機会が充実している中、講座や地域での体験活動において幅広い世代の人たちが学び・交流し合い、知識や技能を次の世代につないでいます。多様な文化芸術活動が活発に行われるとともに、触れる機会が確保されており、誰もが豊かな感性を持ってうるおいある時間を過ごしています。

➤ 現 状

地域での学びや伝統文化は地域住民により継承されています。多様な文化芸術活動が、市内各所で行われています。地域課題から現代的課題まで、多様な学習機会が提供されています。

➤ 課 題

市民一人一人の郷土意識と愛着を醸成する必要があります。
若い世代の文化芸術・伝統文化への関心・興味を高める必要があります。
生涯学習における市民ニーズへの対応と、習得した知識や技能を地域で活かす環境づくりが必要です。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

平塚らしい文化の創造や、地域内の多世代交流を深めます。
 文化活動や郷土芸能、歴史への理解を深め、後継者を育成します。
 文化芸術ホールや社会教育施設を活用して、多様な市民が文化芸術に触れる機会を充実させます。
 学習や発表の場の充実、地域における人材育成や活用に取り組みます。
 公民館事業におけるESD（持続可能な開発のための教育）を推進します。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
各種講座・講習会 への参加者数	31,337 人	検討中	
文化芸術ホール主催事業の参加者数	24,684 人		

社会教育課、中央公民館、中央図書館、博物館、美術館が実施する事業

誰もが楽しめるスポーツを充実する

➤ 目指す姿

様々なスポーツ施設や体を気軽に動かす機会が存在し、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しんでおり、心身ともに健康で豊かな生活を送ることができています。

➤ 現 状

トップスポーツの試合が開催されています。
パラスポーツやニュースポーツなど、スポーツに親しめる環境が整っています。
子どもや高齢者の体力低下、青・壮年期の人が運動不足の傾向にあります。

➤ 課 題

生涯にわたり多様なスポーツ・レクリエーションに親しめる場、機会が必要です。
様々な体力づくりの場、機会が必要です。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

湘南ベルマーレなどが行う取組を支援するとともに、トップスポーツと交流する場を設けて、幼少期からスポーツに触れ、楽しむ機会を充実させます。

障がい者スポーツ等の理解や普及を促進します。

指導者の育成や効率的なスポーツ施設の運営、管理を進めます。

体力や年齢、目的、身体状況に応じたスポーツ活動が楽しめる機会を充実させます。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
パラスポーツ・ニュースポーツ大会等参加者数	-	検討中	
スポーツ施設利用者数	1,299,699 人		